

周作クラブ会報

(第54号)
2014年2月●日発行

周作クラブ

◆主な記事◆

「新年会」報告	2面
「遠藤文学会」報告	3面
原稿発掘	4・5面
長崎文学館便り	6・7面
軽井沢高原文庫	8・9面

報告「町田市民文学館「遠藤周作『侍』展」人生の同伴者」に出会うとき

狐狸庵VSまんぼうのユーモア

展覧会のみどころ

本展は、タイトルにもある通り『侍』を中心に、遠藤先生の描いた「同伴者」の姿を、数々の代表作や遠藤先生の人生からひも解いています。第1章「人生をかけたテーマとの出会い」では、幼少期から文壇デビューまでの人生を追い、そこで出会った人々との交流と文学テーマを獲得するまでの道のりを紹介しています。第2章「同伴者」の発見」では、『沈黙』で見出したイエスの像が『イエスの生涯』における聖書研究を経て、『死海のほとり』によ



再現された遠藤周作の書斎

り深められ、『侍』に描かれた「同伴者」に結実した過程を検証されています。第3章「その後の作品に投影される「同伴者」の影」では、『侍』以後の純文学作品『スキヤンダル』、『深い河』に底流する「同伴者」の存在を明らかにしています。番外編として狐狸庵先生のエッセイコーナーも設け、思わずクスツとしてしまう心温まるエッセイをパネルで紹介し、また、『侍』をはじめとする代表作や、31歳頃に、「伊達龍一郎」名義で「オール讀物」に発表した小説「アフリカの體臭」も読めるようになっています。本展が遠藤文学の真髄を見つめ直すきっかけとなれば幸いです。

(3月23日まで開催中)

齋藤由香氏講演会

ソチ五輪開幕の日、そして東京では45年ぶりとなる記録的な大雪に見舞われた2月8日に、齋藤由香さんの講演会を開催しました。

数日前からの大雪予報に、狐狸庵先

生、マンボウ先生どうか雪を降らせないでくださいーと祈っていました。が、両先生のイタズラか、当日は一面の銀世界。せめてひどくなりませぬようにと願う気持ちに反して風雪はますます激しくなっていました。午前中は、講演会の開催を確認するお問い合わせとキャンセルの連絡がひっきりなし！講師の齋藤様やお出で下さるお客様のことを案じながらの開催となりました。



講演中の齋藤由香さん

齋藤由香さんは、北杜夫氏のご長女で、「窓際OL」シリーズや『猛女とよばれた淑女』などの著作のあるエッセイストです。ご本からもうかがえるユーモアあふれる語り口で、狐狸庵先生とマンボウ先生の交友やそのユーモア、マンボウ先生のユーモアの源泉についてお話くださいました。

軽井沢での思い出

まずは「金貨ジャラジャラ」。「うちの別荘は広大な別荘で、息子は金貨でジャラジャラ遊んでいる」という遠藤先生の言葉に誘われ別荘を見に行くこと、「子供にオシッコさせるな！親の

教育が知れるぞ」の看板に出迎えられ、「金貨」の正体はチョコレートのお菓子だったとか。その他にも「きゅうり事件」「ペルシヤ犬」についてのエピソードもご披露くださいました。

北家では、「遠藤さんの家を見る、阿川さんの家を見る、うちより、もつとひどいんだぞ！」と事あるごとに北さんが言い、奥様や齋藤さんは「うちよりも大変な家があるんだ」と、それを心の支えにしてきたとか。後日、阿川佐和子さんとの対談で、阿川家でも、遠藤家や北家はうちよりもつとひどい、と阿川さんがおっしゃっていたことが判明したそうです。

講演の最後には、遠藤先生、北先生、阿川先生の三人が一緒に出演されたテレビ番組の秘蔵DVDを特別に上映してください、絶妙な、何ともいえない三人の仲良しぶりを実際に見ることができました。

会場は終始笑いに包まれ、楽しい講演会となりました。身近な方ならではの齋藤さんのお話は、『侍』をとりあげた本展では伝えきれなかった遠藤先生の多面性や人間的な魅力を教えてくれました。

最後に、齋藤さんから叔父・茂太さん直伝の「心が楽になる生き方」のコツを伝授していただきました。皆様にもコツソリお教えしましょう。それは：①80%で満足する ②ユーモアを身につける」です。ぜひ実践してみてください！

(町田市民文学館 神林由貴子)